改進新聞

明治四十三年三月廿一日　第二千四百三十五號

ステキめツポー　おもしろイ

大地震大番附

乞食曰く避難民です

偉勳一等賞　無線電信
惜まるる　三殿下
ホキット折れた淺草　十二階
グヅ〳〵云やあがる　火災保險
本所被服廠跡死者　三萬五千
首がおつこちた　上野大佛
馬鹿に儲けた上野の　望遠鏡貸
救濟支出に決した　五億餘萬圓
効勞の魁軍用　飛行機

無事息才の三越の　獅子
新規に出來た　金庫あけ業
母校を奪はれて泣く　學童十五萬
昔に返つた　箱根八里
武士道の權化　山内本所署長
數丈の地割れ　宮城前
殆んど全滅　熱海箱れ
のりのついて居らぬ　切手と印紙
燒灰が飛んで　常陸水戸迄
氣持のいゝ暴利　取締令
惡い事云ひ當てる　大本教

泣く子に夫れッ地震
ヒョッコリ合つた鴈と仁左
朝飯もらふに晝までかゝり
殖へたマスクやと繪端書や
根底から破産した化學やはん
側杖くつた伊藤野枝
地團太ふんだ大森博士
●●へ女●●●●●湯●●
鮮人に似たのが抑々不運
三越の燒跡を探す男かな
ベロリと東京ナメちまい
此所小便無用町のまん中
御面相はバラック式だネ！
田舍稼ぎに出る藝妓

火保の契約二十三萬
震災前の東京住民二百五十萬
其後は概算百二十萬
政府を相手に宗一の母者人
何が當るやらかん婦白蓮
安政地震から今日迄六十八年目
ビクツともせぬ帝國ホテル
燒けた南北二里二十八町
潰された父の腕を鋸つて助けた息子
妙な名前鴨志田甘粕
名古屋へ移り申候回向院
火元實に百三十餘ヶ所
恐ろしかつた龍卷
あんまり効力のない金庫

御免蒙

大正十二年九月一日午前十一時五拾八分二十三秒

震源地北緯卅五度四

地震めが人をしらみと間違へてつぶして見たり燒いても見たり

勸進元　常陸要め石　戒嚴司令部

救援第一着北米　合衆國
あわれ　大杉榮
第一番に燒けた　警視廳
氣持のいい郵便貯金　非常拂ひ
死者千人餘の吉原　公園の池
尋ね人の廣告になつた　西郷の像
賴み手のカイモクない　美術家連
震災に依る日本の損害　九十二億餘萬圓
行列は被服廠から　地獄まで

燒け死んだ　花屋敷の象
辻々に居る自轉車バンク　直しや
帝大丈で燒けた書籍　七十六萬
急造りの乘り合　荷馬車
退かずに火を防いだ住友　支店の課長
五尺下つた　横濱の地面
京濱で燒けた電話機　三十二萬
御利益あらたか　淺草觀世音
東京の火事が見へた　岩代福島
一尺五十圓に賣れた　活動ヒルム
乞食がなくなつた筈みんな　乞食になり

飴ン棒に曲つた鐵道
仰向いてへそを出した丸善書店
燒失戸數四十五萬
大活動をして鑵詰樣々
誰かゝ喰つたらしい公園の鴨
屋根迄のせた避難汽車
四日の朝ツイタ慰問袋
●●●へどしどし長唄の師匠
燒死人口六萬八千
林女史の廢娼運動
大正の大江戸へ草ン鞋がけ
とう寫すりの官報教科書
儲けた事は儲けたが懲役二年
自警團長宛然巡査矣

おれ丈は生きたぞよ火吹く廠
火事ごろ地震ごろ泣つ面に蜂
九月二日隨分早いすいとん賣
二度目のビックリ燒殘り爆破
將に大工五圓日傭三圓也
九月七日流言火語取締令出づ
ウッだつた首相の死
男ばかりで●●●泣●●●
ハイ御承知の通り支拂延期令
恐れ多くも御救助金
條つく同情歐米七ヶ國
大地は裂けて人を呑む
是れが昨日の皇都かなア

上野から見た武藏野原ハヤリ出した枯すゝき節　一枚定價金拾錢也焉

大正十二年八月二十六日御屆　同二十八日發行

著作者兼發行印刷人　まなすや主人　大野榮之助　名古屋市中區古渡町三十番地

熊本縣下飽田郡高橋

熊本城內號砲臺

被害の實況及び同地第六師團所轄熊本城內（舊平左衛門櫓床）號砲臺近傍の土地割裂の寫眞に據て圖畫を作り之を歐風寫眞畫樣に模刻したるものなり幾多の寫眞中特に茲に此の兩面を撰みて模刻したるものは該地被害の箇處中殊に此の兩處を以て最も悲慘の箇處となせばなり

……年九月、寛政四年二月等に於て九州に起れる前後九回の震災と共に永く史上に記して不忘に備ふべきの大震災なりと云ふ

明治廿二年九月一日東京朝